

<H9-7-A : 問題>

次の文は、道路の新設に伴って実施した標準的な公共測量作業規程に基づく路線測量について述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 計算によって求めた主要点及び中心点の座標を展開して線形図を作成した。
2. 主要点、基準点及び引照点の座標値を展開して杭打図を作成した。
3. 中心点から引照点までの距離を測定して引照点図を作成した。
4. 縦断測量の結果に基づき、距離を表す横の縮尺を線形地形図の縮尺と同一にして縦断面図を作成した。
5. 平板測量により平面図に中心線、中心点及び建物の位置を記入して詳細平面図を作成した。

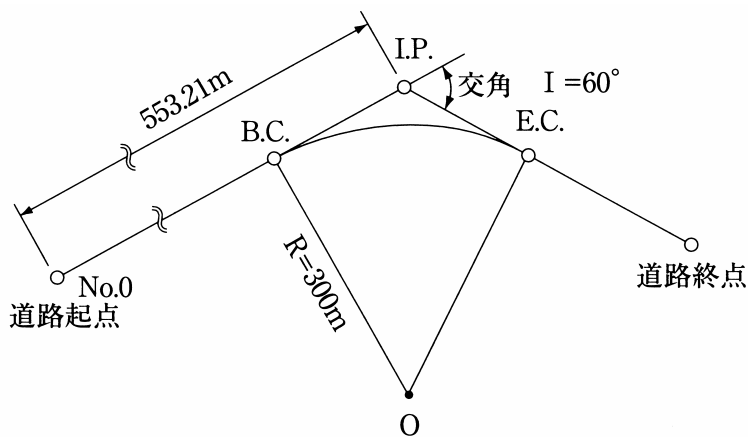
<H9-7-B : 問題>

平たんな土地に図7-1に示す円曲線を含む路線の中心線を設置することになった。交点(I.P.)の位置は道路起点(No.0)から553.21m、曲線半径(R)は300m、交角(I)は60度である。円曲線終点(E.C.)の標杭の位置はいくらか。**最も近いものを次の中から選べ。**

ただし、中心杭は道路起点(No.0)から20m間隔で設置するものとし、円曲線始点(B.C.)、円周率は3.14とする。なお、関数の数値が必要な場合は、関数表を使用すること。

1. No. 33+9.00m
2. No. 33+15.00m
3. No. 34+11.00m
4. No. 34+14.00m
5. No. 35+6.00m

図7-1



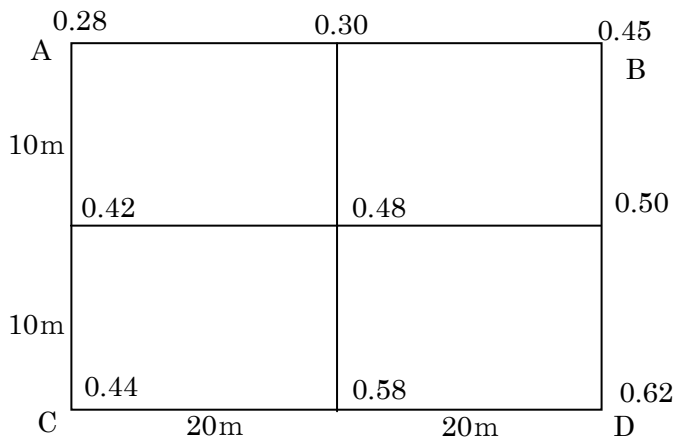
<H9-7-C : 問題>

水平に整地された長方形の土地A B C Dにおいて水準測量を行ったところ、地盤が不当沈下していたことが判明した。水準測量を行った点の位置関係及び沈下量（m単位）は、図7-2に示すとおりである。盛土により、もとの地盤高にするには、どれだけの土量が必要か。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、土地の平面形の変化及び盛土による新たな沈下の発生はないものとする。また、土量は、図7-2に示すとおり土地A B C Dの面積の等しい4個の長方形に区分して、点高法により求めるものとする。

1. 361.50m^3 2. 361.78m^3 3. 363.50m^3 4. 363.78m^3 5. 365.50m^3

図7-2



<H9-7-D : 問題>

次の文は、標準的な公共測量作業規程に基づいて実施した河川測量について述べたものである。間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 距離標設置測量において、距離標を近傍の 3 級基準点から放射法により設置した。
2. 水準基標測量において、標高を 4 級水準点により設置した。
3. 定期縦断測量において、新設された構造物の位置をトータルステーションを用いて測定した。
4. 定期横断測量において、陸部の地形変化点の標高をトータルステーションを用いて測定した。
5. 深淺測量において、水深が浅い場合にレッド又はロッドを用いて水深を測定した。